

1 現職教育

□ 現職教育テーマ

心の教育（人権・同和教育）を核とした協働研修の充実 ～ 「心を大切にした表現力」の育成を中心に ～

□ テーマ設定について

1 今日的課題から

本年4月から新学習指導要領が全面実施となった。確かな学力，豊かな人間性，健やかな体といった知・徳・体のバランスのとれた力である「生きる力」をより一層はぐくむことが求められている。学習指導要領の改訂の基本的な考えの一つに「豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実」があげられている。「言語の能力の重視や体験活動・道徳教育の充実，健やかな心身の育成についての指導の充実により，豊かな心や健やかな体を育成する。」と明示されている。

2 本校の研究の歩みから

本校は平成16～18年度に国語科，平成19年～20年度に社会科の研究指定を受け，実践を積み重ねてきた。また平成21年度は「個人研修を核とした教師力の向上」，平成22年度は「学校重点目標の達成に向けた協働研修の創造」をテーマに研修を重ねた。昨年度は，学力改善支援チーム派遣事業も取り入れ，子どもたちの基礎学力の向上についても取り組んだ。

これまでの個人研修では，それぞれが授業を公開し，幅広く学ぶことができた。積極的に授業を公開し，教師が互いに学び合う個人研修の考え方は，今後も重要であり，協働体制の基盤ができたと考えられる。

本年度は，この協働体制のもと，知・徳・体のバランスのとれた教育を目指し，学校課題の解決に向け，研修をより深めていきたい。そのために，一つのテーマのもと，共通理解を図りながら，実践を積み，成果と課題を明確にしていきたい。

昨年度の学校評価によると，特に「子どもの規範意識の醸成」や「人権・同和教育の一層の充実」といった心を育てることが課題として明らかになっている。

3 本校の児童の実態から

本校の子どもは，明るく活発で，指示されたことは一生懸命に取り組む。一方，自分で考えて主体的に行動したり，相手の立場に立って行動したりすることができにくい。「心のアンケート」で県と比較してみると，「人の気持ちの分かる人間になりたい」（－0.3）と答える児童はいるものの「人が困っている時は進んで助けている」（－12.9）と答えた児童は少なく，道徳的な実践力が身につけているとは言えない。特に，学年が進むと，この傾向が強くなる。

学力の面から見てみると，県学習状況調査での考える力や表現力は高いとは言えない。語彙が少なく，自分の考えを伝える力が不十分であったり，他を思いやる心が育っていなかったりするために，日常生活で乱暴な言葉遣いをしてトラブルが発生することもよくみられる。更に，学習に意欲がわきにくかったり，粘り強く取り組めずに，途中で学習意欲が低下する児童がいる。また，自分に自信がないために，力を十分発揮しにくい児童もいる。

このことから，子どもたちの心の教育に焦点を当て，子どもたちの心を耕し，自尊感情を高めながら，主体的に行動できる実践力を育てるための取り組みが必要であると考えられる。そこで，本年度は，人権・同和教育を核として，「心を大切にした表現力」の育成を中心に協働研修を進めていきたい。

4 サブテーマについて

(1) 「心を大切にしたい表現力」の意味

人権の共存の考えを基盤に、「自分の大切さと共に他人の大切さを認めること」ができるという人権感覚を教師も子どもも身につけたいという考えから、次の3点を「心を大切にしたい表現力」と設定する。

- ① 相手の立場に立って、気持ちを想像しながら聞く力
- ② 伝えたいことを的確に伝えることができるコミュニケーションの技能
- ③ 一方的に主張するのではなく、相手の立場や気持ちを考えながら主張する、非攻撃的主張ができること。

まず、自分の考えをしっかりともてるような場を設定したり、表現しやすいように安心感のある学級、学校の雰囲気づくりに努める中で、授業では相手にわかりやすい表現の仕方を学ばせることが大切であると考えます。

そして、どのように語れば、相手も気持ちよく聞いてくれて「自分の伝えたいことが的確に伝わる」のかを考えさせたい。さらに、実践に結びつくような体験的活動をいろいろな場で取り入れることにより、伝えたいことを的確に伝えることができるコミュニケーションの技能を高めたい。

その一方で、相手の立場に立って、気持ちを想像しながら聞くことも大切な力ととらえたい。学習規律の面からも、よく聞くことは重要であり、聞くことから学習がスタートし、成立する。そこに相手の立場に立ち、「相手の気持ちを想像しながら聞く」という目標をおくことで、自分の言葉で自分や友だちの考えを語れる子が育つのではないかと考える。

更に「一方的に主張するのではなく、相手の立場や気持ちを考えながら主張する、非攻撃的主張ができる」力を身につけさせることは子どもたちが、生きていく上で大切な力であると考えます。国語科だけでなく、様々な活動の場をとらえ、具体的な指導の在り方をさぐっていききたい。

(2) 「自尊感情」「規範意識」と「心を育てる表現力」について

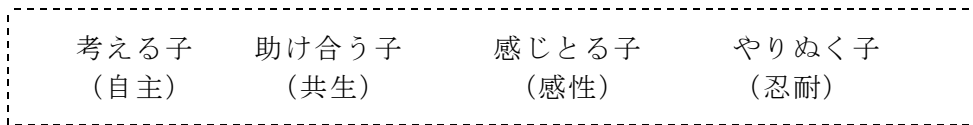
研修を進めるにあたって、課題解決のキーワードとなる「自尊感情」「規範意識」といった言葉をどうとらえるか、そのうえに、どのようにしたら「自尊感情」や「規範意識」が高まるのかを授業や活動の中でさぐっていききたい。

まず、教科、道徳、総合的な学習の時間、特活の中で、学習態度や学習内容について自己評価や相互評価をする活動を重視したい。友だちが自分のことを認めてくれた喜びや友だちのよいところを見つけて話すことができたという喜び、更には、粘り強く取り組むとできるようになったという喜びをしっかりと体験させ、積み重ねていくことで自己有用感が芽生え、自尊感情が育つのではないかと考える。そのためには、ともに学び合う中で、自分を表現し、友だちのことを表現できる力をつけることが必要である。更に、授業と集会活動などを関連させたり、様々な表現活動の場を工夫したりすることは、子どもの表現意欲を高めることにつながるのではないかと考える。そして、友だちが好き、学校が好き、自分が好きという気持ちを持ち、自尊感情が高まれば、学習意欲や学力の向上にもつながると考える。

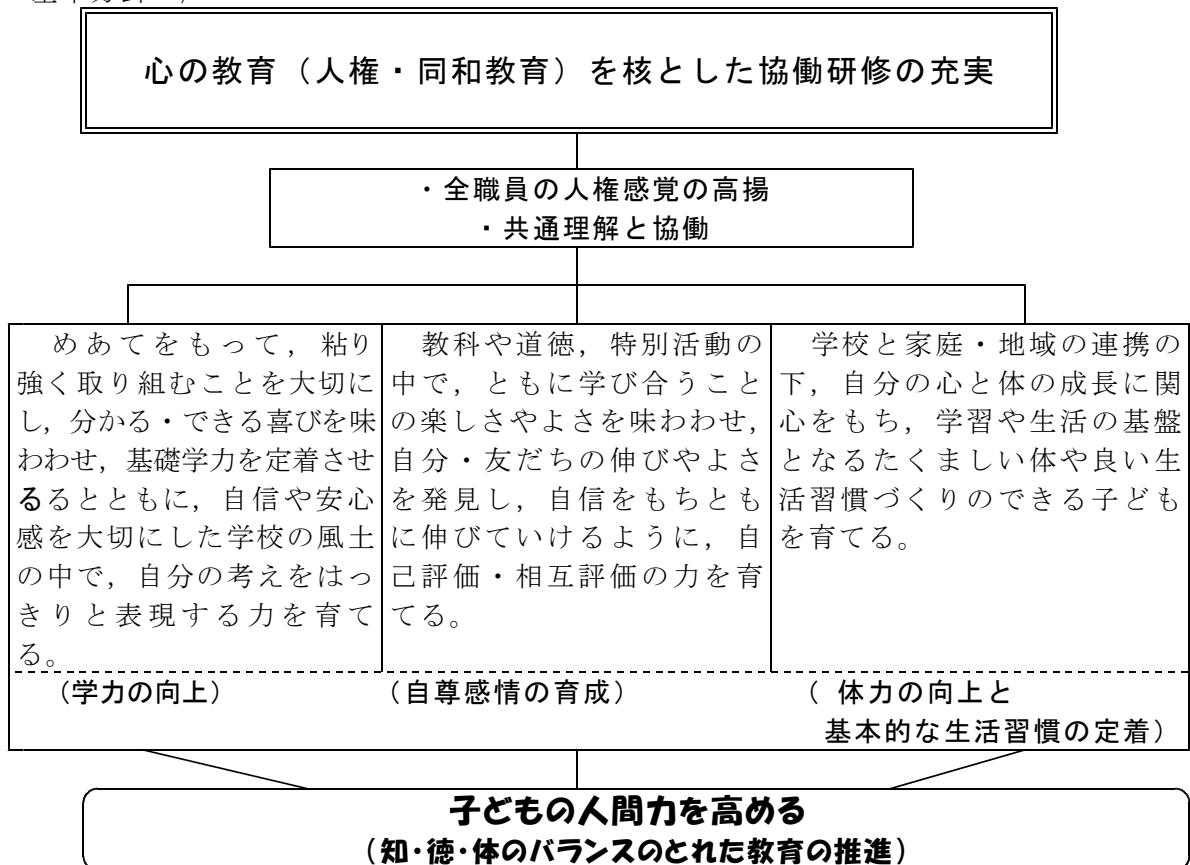
また、規範意識については、基本的な生活習慣の定着や学習規律の確立、心を耕す体験が重要な要素をしめているのではないかと考える。本校には、基本的な生活習慣が不十分で学習習慣も定着していないことから、学習意欲が低い子どももいる。更に保護者の協力を得にくい家庭もある。学校・家庭・地域のパイプを太くし、保護者に啓発していく手立てを工夫していく必要がある。授業参観日を活用しての授業公開や学校だより・学年だより、学校HPで、授業のねらいや日常の学習の様子などを積極的に知らせるなど、理解を図ることに努めていきたいと考える。そして、授業・朝活動の時間・家庭学習の効果的なサイクルを工夫し家庭学習の在り方についても見直していききたい。発達段階に応じ、学習への関心が高まるような家庭学習の手引きの作成など、家庭に働きかけながら、学習習慣を身につけ、自から学ぼうとする態度を育てていききたいと考える。

□ 研究の基本構想

〈 目指す子ども像 〉



〈 基本方針 〉



□ 研究の内容と方法

1 人権・同和教育の視点に立った授業研究

- (1) 発達段階や各学年の環境を踏まえ、系統立てた人権・同和教育の授業研究
 - ・ 学年別人権・同和教育目標をもとに、計画にそって授業実践を行う。
 - ・ 各学年で授業研究を行い、全体に授業公開をする。全体討議の場をもち、成果と課題を明らかにして研究を積み重ねる。
- (2) 道徳の時間と他教科・特活との効果的な関連を図った授業研究
 - ・ 人権・同和教育の視点から重点をおく価値を決め、総合単元的学習の開発を行う。
 - ・ 年間で各学年で一つ以上、実践記録を残す。
- (3) キャリア教育の考え方の導入
 - ・ 「人間関係形成能力」(自他の理解能力)(コミュニケーション能力)を育てる。
 - ・ 学ぶ意欲や自尊感情・表現力の育成につながる。
 - ・ 人材バンクの開発の期待される効果。

2 心を大切にした表現力を高めるための活動の工夫

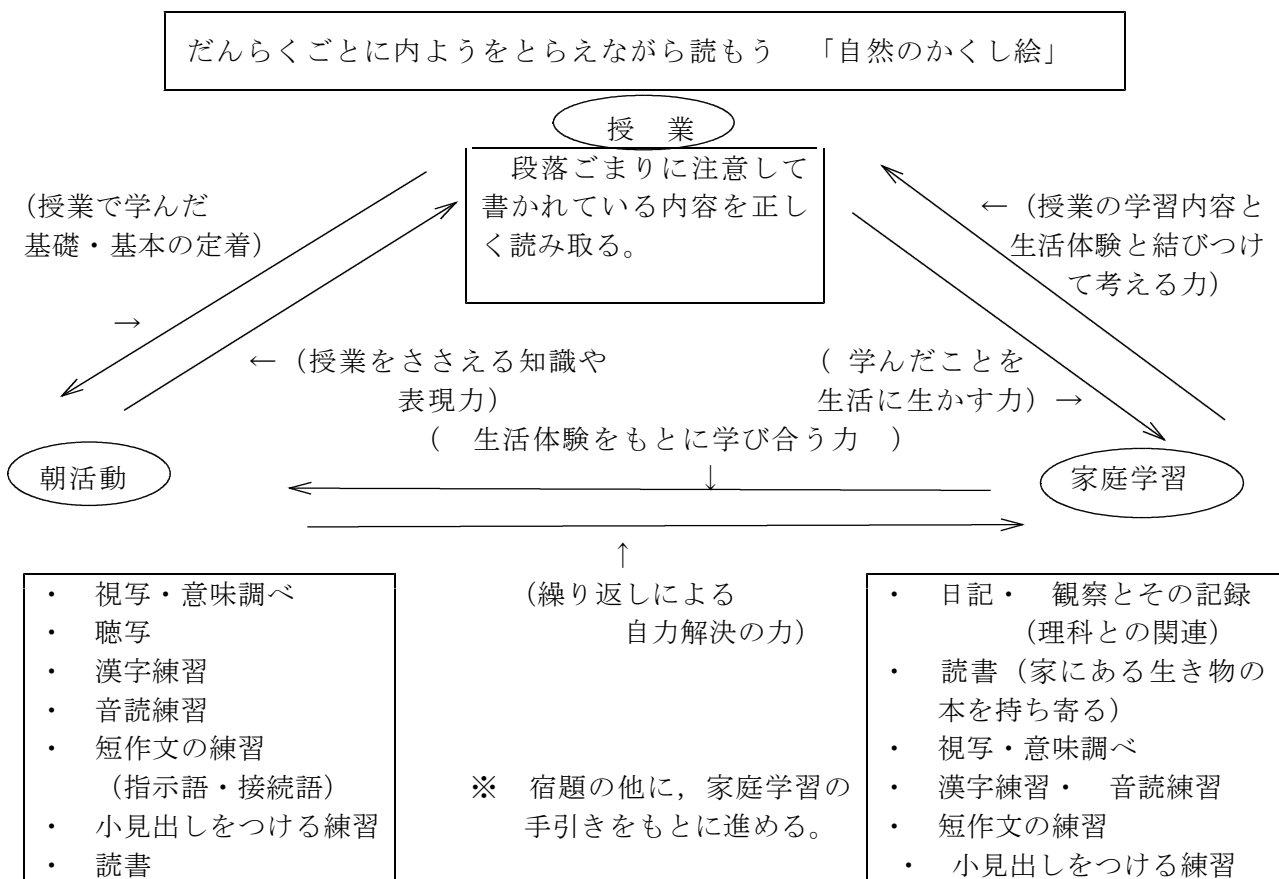
- (1) 国語科を中心にした各教科等での表現力の育成
 - ・ 話すこと・書く活動の重視。(自分の言葉で自分や友だちの考えを語れる子)
 - ・ 話し方・聞き方の指導。(規範意識・相手を尊重した態度)
 - ・ グループワークトレーニング(話にくい子どもたちの心を開く楽しい活動)

(2) 朝の活動の工夫

月	火	水	木	金
読書活動 一人読み アニマシオン ブックトーク 感想文 感想画	国語 (補充的な学習) 平仮名・片仮名 漢字練習 視写・聴写 言葉集め 意味調べ 短作文 等	集会 全校朝礼 児童集会 学年団集会 学級の時間	算数 (補充的な学習) 計算練習 お話問題づくり 等	1 週目 英語活動 2 週目 表現活動 3 週目 表現活動 4 週目 心のノートの活用

- ・ 学習指導部会が月ごとに計画を出し、各学年の学習指導部員が中心となって学年で歩調をそろえて進める。
- ・ 子どもが覚えやすいようなネーミングを部会で考える。
- ・ 月曜日は、読書の時間を確保すると共に、読書意欲を高めることを目的とする。
- ・ 火・木曜日は、基礎学力の向上を目指し、授業と朝活動と家庭学習の効果的なサイクルを考える。(例を参考に)
- ・ 金曜日の1週目の英語活動については、担当から出された計画をもとに進める。
- ・ 金曜日の2・3週目は、心を育てる表現力の育成のための時間とする。心づくり部会が活動例を提示する。
- ・ 金曜日の4週目は、心のノートを活用し、自分を振り返り、次の月の生活目標について意識を高める時間とする。どのページを使うか、道徳主任と生徒指導担当で相談して、簡単な活動計画を示す。
- ・ 4月18日(3週目)から実施できるように準備をする。

【 授業と朝活動と家庭学習の効果的なサイクルの例 】
 3年 国語



(2) 表現活動の場づくり

- ア 学年集会
- イ 音読集会
- ウ ペア活動
- エ 学級旗集会
- オ 小さな音楽会

3 教育環境の整備と学校の実践の公開の工夫

- (1) 情報機器や図書資料、学習スペース、学級や校内の掲示等の学習環境を整備する。
 - ・ 学習意欲を喚起する図書の選定や興味をおこす掲示・子どもと作り上げていく掲示を工夫する。
- (2) 人材バンク（地域の人材や施設）の見直しと有効活用を図る。
 - ・ 必要な人材や施設の見直し、積極的な活用により、学習効果を高める。
 - ： 授業ボランティアの活用
- (3) 「学校だより」の発行とホームページの工夫
 - ・ 教育活動の全体的な取組や子どもたちの日常の学ぶ姿、定期的に保護者に情報提供し、理解を得るとともに、協力を願う。
 - 「学年だより」の特集号を発行し、より意図が伝わるように工夫する。
（心の教育、学力向上、少人数授業の工夫、家庭学習の協力、基本的な生活習慣等）
- (4) 授業参観の機会を利用し、教科や道徳・特活・あかもんを公開し、保護者の理解を図る。

4月	6・7月	11月	12月（人権・同和）	2月（あかもん）
----	------	-----	------------	----------

4 公開授業を通しての自主的な研修

- (1) ねらい
 - ・ 毎日の授業を大切にし、日々を自己研修の場とする。
 - ・ お互いに参観授業を行うことで、授業に関する資質を向上させる。
 - ・ 授業後はお互いに研究する仲間として成果と課題を明らかにして、研究を深める。
 - ・ 現教の時間に設定した研究授業の他にも、積極的に授業を公開する。
- (2) 具体的方法
 - 全体提案授業について
 - ・ 人権・同和教育の計画にそった授業の公開
 - ・ 指導案検討会、授業討議を行う。その際には、各学年部会で事前に指導案検討を行い、授業記録者・討議記録者・討議司会者を決め、各授業における主張点や授業後の成果と課題を明らかにし、研究の積み上げを図る。
 - ・ 授業の年間の予定や指導案形式については、別途計画を参照する。
 - 自主的提案授業について
 - ・ 研究の視点に合わせて積極的に行う
 - ・ 1時間の授業の中の一部の学習過程を公開してもよい。特に提案したい場面や意見感想を求めたい場面や活動について、略案に明記する。参観者は意見を求められたことや参考になった点や感想等記録に書き、授業者に渡す。
 - ・ 授業略案や参観記録は、各自ファイルとして保存する。
 - ・ 授業後はまとめをし、全体に印刷・配布をして広める。

〈指導略案の形式〉

○年○組 ○○科学習指導略案
△△△△

- 1 日時 ◇月◇日 □校時
- 2 単元・教科名
- 3 本時の目標
- 4 参観のポイント
- 5 本時の展開

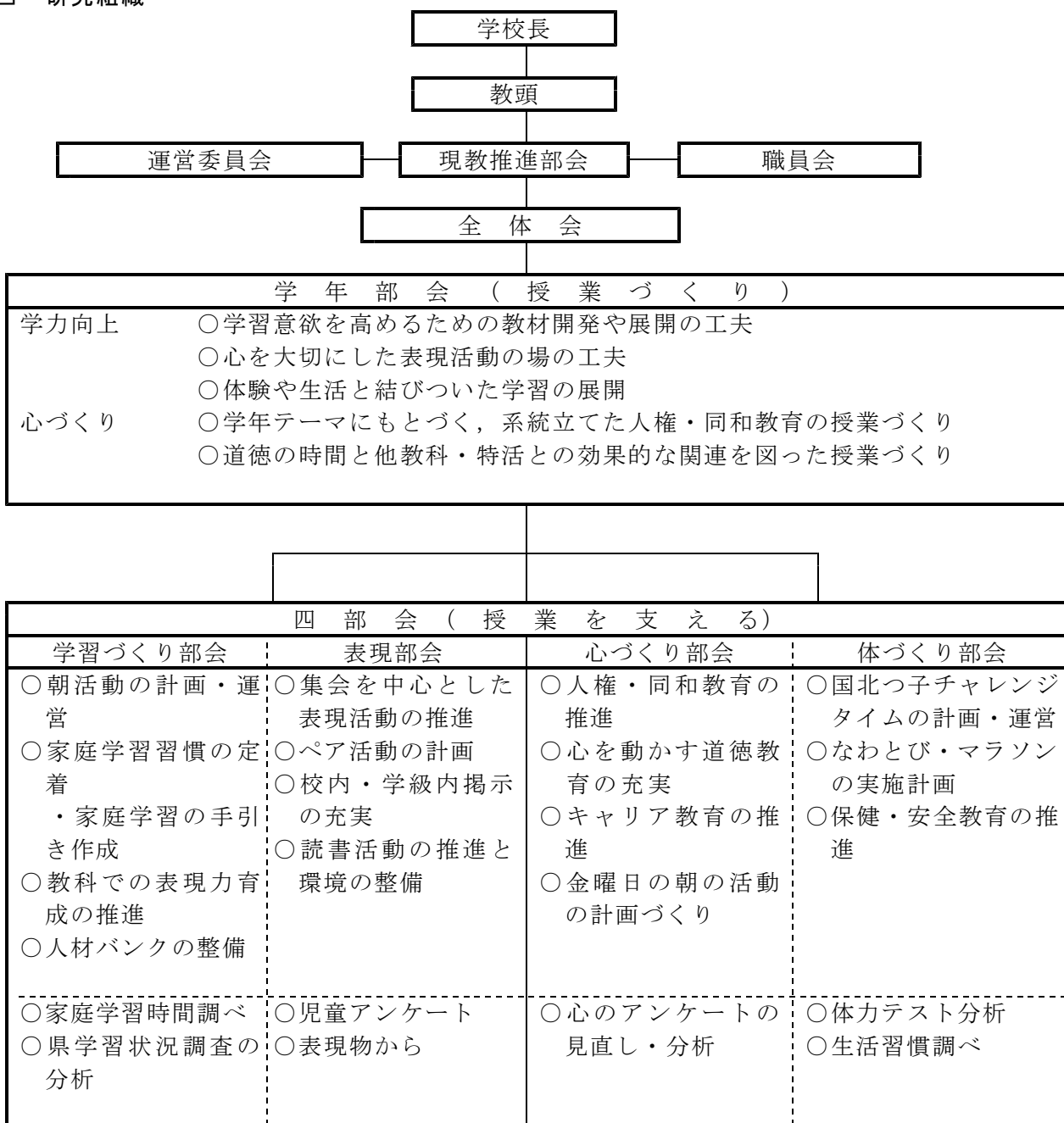
時	学習活動	支援等

〈参観記録の形式〉

○年○組 参観記録
△△△△

- 1 教科・単元名
- 2 参考になったこと
- 3 参観のポイントについて
- 4 授業を参観授業しての感想

□ 研究組織



□ 現職教育年間計画

月	日	曜日	研修内容	備考 (若年研修等)
4	5	火	現教推進部会	(若年 自己研修テーマ作成) 学習参観 6年 修学旅行 1～5年 校外学習 (人権・同和教育研修) (学習指導案作成)
	13	水	現教計画について (全体) 学校訪問・学習指導案について (全体)	
	20	水	四部会・・・年間活動計画作成 教育計画作成 (学年研修)	
	27	水	本校の人権・同和教育について・英語活動 について (全体) 教育計画・学習指導案検討 (学年)	
5	11	水	授業づくり・環境整備 (学年)	家庭訪問・学校訪問 (学習指導の基礎・基本) (特別支援教育・教育相談) (生徒指導について)
	18	水	学校訪問 四部会報告 (全体)	
	25	水	児童理解・生徒指導について (全体)	
6	1	水	四部会 (5)年授業提案 (全体)	学習参観親子ふれあい学級
	8	水	(5)年研究授業・討議 (全体)	
	15	水	学校訪問反省 四部会報告 道徳教育・キャリア教育研修 (全体)	
	22	水	食育について (全体)・パソコン研修	
	29	水	児童理解・生徒指導について (全体) (4)年授業提案 (全体)	
7	6	水	(4)年研究授業・討議 (全体)	5年 宿泊学習・個人懇談会
	13	水	人権・同和教育研修	
8	3	水	四部会 特別支援教育・教育相談について	(自己研修の中間まとめ)
	25	木	四部会報告 夏季研修報告	
9	7	水	夏季研修報告 四部会	(評価について)
	14	水	(2)年授業提案 (全体) 児童理解・生徒指導について (全体)	
	21	水	(2)年研究授業・討議 (全体)	
	28	水	四部会報告 学年部会・・・評価について	
10	12	水	現教の中間まとめと今後について 四部会	期末懇談会 運動会
	26	水	四部会報告 (3)年授業提案 (全体)	
11	2	水	児童理解・生徒指導について (全体) (3)年研究授業・討議 (全体)	学習参観 県学習状況調査
	9	水	四部会 (6)年授業提案 (全体)	
	16	水	(6)年研究授業・討議 (全体)	
	30	水	人権・同和教育研修 (1)年授業提案 (全体)	
12	7	水	(1)年研究授業・討議 (全体)	学習参観・講演会
	14	水	四部会報告	

			学習状況調査の分析と改善策について (学年)	
	21	水	人権・同和教育研修のまとめ (学年)	
1	11	水	四部会 児童理解・生徒指導について (全体)	(若年 研究授業)
	18	水	学校教育評価について (全体)	小さな音楽会
	25	水	四部会報告 評価について (学年)	
2	1	水	評価について (学年)	
	8	水	道徳教育のまとめ作成 (学年)	
	15	水	評価について (学年)	
	22	水	学校教育評価について (全体)	
3	7	水	現教のまとめ (全体)	(研修の成果と課題)

- ※ 授業者や提案者・討議の司会・記録は学年内で分担する。学年部会を開き、事前研修を行う。
- ※ 自主的な公開授業は計画に入れていない。教科は自由で、自分の研究のため、積極的に公開する。
- ※ 細かい計画は、月計画で知らせる。